

平成25年度木材増殖礁連絡会議

1. はじめに

平成22年度より水産庁の5か年の補助事業として「木材利用を促進する増殖技術開発事業」が実施され、今年度で4か年目となります。本事業において、当研究所では、①事業の実施団体との技術情報交換により実施成果のとりまとめ、より効果的な木材増殖礁の標準化についての検討、②各地域からの応募に対して審査する評価委員会の設置・運営、③当事業の普及活動を行っております。

現在、「木材利用を促進する増殖技術開発事業」は、当研究所を含めた全国版（「木材の利用率が高い増殖礁の開発・普及事業」）2団体、地域版（「地域の木材を活用した増殖礁の実証事業」）15団体で実施されています。各地域で製作・設置された木材増殖礁は、設置後の継続的なモニタリング調査により、次第にその効果が明らかになってきています。「木材増殖礁連絡会議」は、各事業実施団体における木材増殖礁に係る共通の認識と技術の向上を図る目的で当研究所が主催し、平成23年度から毎年度開催しています。平成26年度が最終年度ということを踏まえ、本年度は各地域の事業の状況報告に加えて、本事業終了後の各地域の事業化に向けて、各事業実施団体から提供された調査データから当研究所で試算した費用対効果をもとに議論を行いました。

2. 連絡会議内容

(1) 開催概要

開催日時：平成26年1月17日（金）13:00～16:20

開催場所：エッサム神田ホール 5階イベントホール2

主催：（一財）漁港漁場漁村総合研究所

参加者数：地域版15団体、全国版1団体、事業評価推進委員6名、水産庁4名 計48名

●プログラム

- ①開会 主催者挨拶
- ②水産庁挨拶
- ③事業推進評価委員の紹介
- ④16地域(全国版1、地域版15)の事業報告
- ⑤各地域の事業化に向けて（費用対効果試算）
- ⑥ディスカッション（事業化に向けた課題等）
- ⑦事業推進評価委員長 講評
- ⑧水産庁 講評
- ⑨閉会

3. 連絡会議内容

(1) 各地域からの事業報告

全国版、地域版の事業を継続して行っている各地域から、過年度の成果を含めた今年度の事業の中間報告が行われました(表1)。

表1 事業実施地区と地域協議会名称

| No. | 地区/地域協議会名称 | 事業区分 |
|-----|--------------------------------------|------|
| 1 | 兵庫県淡路市沼島 沼島地域協議会 | 全国版 |
| 2 | 新潟県魚沼市 魚沼地域協議会 | 地域版 |
| 3 | 富山県魚津市 魚津市地場産木材活用魚礁実証事業協議会 | |
| 4 | 静岡県伊豆市西伊豆町 田子漁港木材増殖礁技術開発地域協議会 | |
| 5 | 福井県小浜市 若狭の木で海づくり地域協議会 | |
| 6 | 三重県度会郡大紀町 大紀町漁業活性化推進協議会 | |
| 7 | 三重県尾鷲市 尾鷲市水産振興協議会 | |
| 8 | 大阪府泉南郡岬町 岬町木材魚礁開発推進協議会 | |
| 9 | 島根県隠岐郡隠岐の島町 隠岐の島町木材活用増殖礁開発促進地域協議会 | |
| 10 | 島根県出雲市 神西湖地域協議会 | |
| 11 | 愛媛県松山市 伊予灘松山地区海の種場づくり有志会 | |
| 12 | 愛媛県西宇和郡伊方町 三崎地区一本釣り漁業再生協議会 | |
| 13 | 長崎県対馬市女連 対馬海域における木材利用増殖実証事業協議会 | |
| 14 | 長崎県対馬市岩見 対馬地域増殖礁開発実証事業協議会 | |
| 15 | 長崎県雲仙市 雲仙小浜木材増殖礁技術開発協議会 | |
| 16 | 沖縄県島尻郡与那原町 木材活用増殖礁沖縄地域協議会 | |

各地域からの報告内容は、木材増殖礁の効果評価の基礎データとなる魚介類の増集量、アオリイカの卵数、木材の餌料動物量、効果発現期間にかかわる木材の食害状況、増殖機能を継続させるための木材交換などで、地域によっては来年度の本補助事業終了後の事業化に向けて、費用対効果を試算している地域もありました。また、各地域の過年度の調査結果から、木材増殖礁には次のような効果があることがわかってきました。

- ①魚体重の増重効果
- ②幼稚魚の育成効果
- ③アオリイカやエビ類の産卵育成効果

報告について、委員からアドバイスもあり、各地域とも他の地域の報告も参考にしながら、事業の残りの期間について、成果を上げていくことが期待されます。



平成25年度木材増殖礁連絡会議 報告状況

(2) 各地域の事業化に向けて（費用対効果試算）

当研究所では、最終年度以降に各地域が本格的な事業展開を開始することを踏まえて、過年度の調査データを提供頂き、木材増殖礁の目的と構造からタイプ別に分類し(表2)、費用対効果の算定を試みました。試算の結果では、木材増殖礁の効果による便益(B)と木材増殖礁にかかる費用(C)（木材の交換も含む）の比、費用対効果(B/C)が1を超える地域は、16地域のうち5地域でした。但し、今回の補助事業は開発実証で、製作設置基数が少なく、一般の増殖礁や魚礁に比べ費用が過大になっていること等もあったため、B/Cが低い地域については、費用の見

表2 各地域の木材増殖礁の分類(当研究所案)

| 目的 | 構造 | 各地域で開発された木材増殖礁 | | |
|------|----------|----------------|--------|-------|
| 産卵育成 | 総木材型 | 新潟・魚沼 | 静岡・伊豆 | 島根・出雲 |
| | | 長崎・雲仙 | | |
| | 耐久構造物活用型 | 三重・大紀 | 三重・尾鷲 | 大阪・岬 |
| | | 島根・隠岐 | 沖縄・与那原 | |
| 漁獲 | 総木材型 | 兵庫・淡路 | 愛媛・三崎 | |
| | | 富山・魚津 | 福井・嶺南 | 愛媛・松山 |
| | 耐久構造物活用型 | 対馬・鹿見 | 対馬・女連 | |
| | | | | |

直しや、他地域を参考に新たな木材増殖礁の効果を取り入れるなどを行えば、費用対効果が高くなる可能性があります。

3. おわりに

当研究所では、今回の会議の各地域からの報告をもとに事例集としてとりまとめ、過年度と同様に木材増殖礁の普及活動の一環として、ホームページ (<http://www.jific.or.jp/>) に掲載する予定です。各地域の過年度の内容などにご興味のある方は、ご覧になってください。木材増殖礁の参考になれば幸いです。